

長澤美津著

女人和歌大系

第四卷

風間書房

女人和歌大系 第四卷

定価 八、〇〇〇円

著者 長澤美津

発行者 風間歳次郎

印刷者 中内佐光

発行所

株式会社
風間書房

〒101 東京都千代田区神田神保町一の三四
振替東京一八五三番
電話(二九一)五七二九番

昭和47年12月10日 印刷
昭和47年12月15日 発行

(晩印刷・有朋製本)

(分)3092-(製)720395-(出)0925

女人和歌大系 全四卷 完結に際して

古来からの日本女性の和歌を集めることに専念して女人和歌大系一・二・三巻を刊行した。その補遺といささかのそれを裏付ける古典和歌の背景となる時代相、女性の分野についての考察を試みたのが本著である。年表を付して第四巻とし、時代篇を終ることとする。

昭和二十四年に女歌人の集り女人短歌会が結成された。前身となるひざぎ会という東京在住女歌人による集りは昭和初期に結ばれていたが機関誌は持たなかった。戦後諸国に疎開等により散らばっていたこの会員の方達の顔が合ったときに、全国にひろくよびかけて女人短歌会となり機関誌「女人短歌」を発刊することになった。当初より参加し編集のことにも携り、女性歌の在り方について追求せざるを得なくなった。然しながら、女性歌そのものについての今迄にある研究は極めて小範囲にとどまり、とりあげられているのはある部分にすぎないことを知った。消長はあるが女性歌の全然皆無という時代は在り得ないこと、まず資料の抽出を手始めとしてとりかかった。爾来二十余年の年月が経過している。

女性歌のさかんな時は和歌史の上に明らかな存在を示している。一方殆ど無視されている面に留意しなければならぬことを痛感し、消長の消の方に目をとめ、衰退のよってくるところを追ってみたわけである。発生の初期の記紀歌謡期・万葉期を経て勅撰集期に入る。本著では八代集の期間を贈答歌において実態を調べた。この間にあって後拾遺和歌集なるものの占める役割が平安女流文学と深い関係にあることを思い、特に重複する部分もあるがこの集の

項目を設けた。

中世の様相は人間関係の複雑さを示し、和歌自態の状態も集团的となり、女性がその中で如何なる存在であったかを知るに、傾向の違った三人の女性の日記に触れることにおいて解明した。私家集期の近世に至っては殆ど女歌人は放置されているといつていいのではなからうか。この期は最も現代に近く、現在もこの期の延長と切り離せないことが多いのである。江戸の初期・中期・末期それぞれ世相の違う点をば徳川政策に触れて、各期の特色ある存在をとりあげて究明した。

この後全体を通観して女人和歌史を記すことにとりかかる予定である。なお明治初年以後の女人の短歌作品を大系つけるべく資料の蒐集に踏み出しているが、果して今後幾許の年月を与えられるか天命のままに、自分の体力もかえりみられるわけである。

全四巻を以て時代篇を了えるにあたり、終始久松潜一先生の御指導に預ったことは大きな倖であった。各期にわたり多くの先生方の御教示・御指導をいただき、殊に高崎正秀先生・佐藤謙三先生の御指導に対して御礼申上げると共に、いまはなき佐佐木信綱先生・折口信夫先生・武田祐吉先生・中村孝也先生に衷心より感謝を捧げる次第です。

思えばこの間、東京の書陵部をはじめ尊経閣文庫及び各図書館等諸所の資料への便宜を与えられたことはもとより、実地調査をかね一回に費す時間は短いながら旅をかさねたこと、水戸の彰考館、浜松の岡部家の諸資料を拝見し、復写の便を与えられたこと、名古屋の徳川美術館・逢左文庫・家康の正室西来院のしずまる西来寺、紀州家の夫人達の墓所、大阪今里の契沖の母の墓所のあたりを探索したこと、殊に夏日炎暑のなかを熱田伝馬町の裁断橋から宮の渡しにと高木市之助先生がお立ち下さったなど忘れがたいことである。また柏崎に赴いた日には老令の堀桃坡氏が

図書館まで出向いて下さったり、日の短くなる初冬の頃に高台寺の廟所を、時を惜しんで訪うたことなども印象深い。更に佐渡・隠岐の島に渡り沖繩にも至り現状を知るとともに土地の郷土研究諸家の御厚意や配慮により、参考になる各種の資料に接し得たのは有難いことであった。昨年初夏のころ綱干に田捨女の不徹寺・竜門寺をたずねた折、はからずも京極伊知女の『涙草』の執筆の機縁をなした地であるのを知り、この種の記録や和歌が各地に、現在も如何なる形においてかなお埋れて存在するであろうことがしきりに思われた。これらの旅は単独のこともあり女人短歌会の方々と行を共にする場合もあった。この度も年表作成・校正は戸川早苗さんの助力に、索引は林みね子さんをわずらわした。協力いただいたみなさんに謝意を表したい。

終りに女人和歌大系全四巻にわたり、本文の他、図表・年表等手数多い刊行に長年の尽力を惜しまれなかった風間書房に対して感謝を申しあげる。

昭和四十七年十一月

長 沢 美 津

凡 例

一、追補にあたり各期の特色あるものを補うにとどめた。

二、研究篇においては各期の在り方によって異った扱い方をした。

□勅撰集期

八代集——撰進年代の間隔も隔り各集の特色が明らかであること、贈答歌に統一して究明した。

十三代集——各集の撰進年代が接近し、各集成立に政治色に支配される点が多いこと、時代相に触れて考察した。

□私家集期

統一政権になる以前の暫くの期間を前期とし、徳川政策の浸透の推移を、初期・中期・末期にわけて考察した。

三、年表は一・二・三・四巻を通じて女性作品を中心として、歌壇・社会事項のうちの関係深いものを配した。

「日本文学史」総年表（至文堂刊昭和39年改訂版）を基準として本大系記載を加えて作成した。

四、正誤表は現在判明しているものとどめ、逐次の訂正は後日を期することとする。

□略記号は各巻共通（番号は大観番号）とした。

女人和歌大系 第四卷 目次

女人和歌大系全四卷完結に際して

凡例

補遺之部……………一

万葉集期……………三

勅撰集期……………四

後撰和歌集……………六

拾遺和歌集……………七

後拾遺和歌集……………七

金葉和歌集……………七

新古今和歌集……………八

健御前（けんごぜ）の歌……………九

御深草院二条（ごふかくさ）の歌……………三

「竹向が記」の歌……………二九

淀君……………三三

京極伊知子（きぎょういちこ）の歌……………三四

杉浦国頭室荷田真崎子遺詠……………三七

研究之部

勅撰集期

第一篇 八代集における贈答歌と女性歌

序 説

(1) 和歌と贈答歌

八代集の女性歌よりみたる区分

第一章 八代集における贈答歌の実態と特徴

(1) 古今和歌集 贈答歌分類表の内容と実例

(2) 後撰和歌集 贈答歌分類表の内容と実例

(3) 拾遺和歌集 贈答歌分類表の内容と実例

(4) 後拾遺和歌集 贈答歌分類表の内容と実例

(5) 金葉和歌集 贈答歌分類表の内容と実例

付 金葉和歌集「国歌大観」にあるを基準として、初奏・再奏・三

奏本の女性歌有無表

(6) 詞花和歌集 贈答歌分類表の内容と実例

(7) 千載和歌集 贈答歌分類表の内容と実例

(8) 新古今和歌集 贈答歌分類表の内容と実例

第二章 古今和歌集・後撰和歌集の撰者の歌風と女性歌

(1) 古今和歌集

①古今和歌集の成立	一五
②古今集の序	一五
③六人の作者のうちの一人の女性	一五
④撰者の歌風	一五
⑤古今集の撰者と女性歌	一六
(イ)小町	一六
(ロ)伊勢	一六
(2) 後撰和歌集	一七
①後撰和歌集の成立	一七
②成立期の政治的背景	一八
③後宮行事と歌合	一七
④撰者の歌風	一八
⑤後撰集の撰者と女性歌	一八
第三章 後拾遺和歌集に見る女房最盛期の作品及び主要女性作者	一八
(1) 後拾遺和歌集	一八
①後拾遺和歌集の成立	一八
②後拾遺和歌集の抒情性	一八
(2) 和歌と女房文学	一八
①女房が形成したもの	一八
②女房の位置	一八
③女房文学	一七

④ 和様の文才ともののあはれ	一八
(3) 和歌と文章	一九
① 歌合の歌	一九
② サロンの歌	二〇
③ 日記文の歌	二〇
④ 撰者通俊の立場	二〇
(4) 後拾遺和歌集の主要女歌人とその作品	二〇
① 和泉式部	二〇
② 赤染衛門	二〇
③ 相 模	二一
④ 弁乳母	二一
⑤ 出羽弁	二二
⑥ 周防内侍	二二
(5) 清少納言と紫式部	二三
① 清少納言	二三
② 紫式部	二四
結び 短歌の本質と抒情性	二五
第二篇 後拾遺和歌集と女歌人	二五
序 説	二五
第一章 後拾遺和歌集の作られた目的	二五

(1)	目的と内容	一五
(2)	後拾遺集の成立期	一五
(3)	後拾遺集の撰歌基準	一五
第二章 白河天皇と後拾遺集		
(1)	勅撰集と撰関制	一五
(2)	白河天皇と勅撰集	一五
(3)	白河天皇と撰関制	一六
(4)	撰者藤原通俊	一六
(5)	白河天皇初期の歌壇	一六
(イ)	宮廷歌壇	一六
(ロ)	初期の歌合	一六
(ハ)	歌合の時代区分について	一六
(ニ)	女性の歌合と歌会	一六
第三章 後拾遺集と女歌人の実態		
(1)	後拾遺集の編成	一七
(2)	小大君と後拾遺集	一七
(3)	後拾遺集の女歌人とその資料	一七
(4)	周防内侍と後拾遺集	一八
第四章 後拾遺集の内容		
(1)	後拾遺集の歌風	一九
(2)	後拾遺集にみる部立と贈答歌	二〇

(3) 後拾遺集女歌人の系統……………	三三二
第五章 後拾遺集の女性作品……………	三五五
(1) 主要女歌人……………	三五五
(2) 難後拾遺からみた後拾遺集の女性歌……………	三三三
(3) 和歌史からみた後拾遺集の女性歌……………	三七七
付属年表 表一……………	三三三
表二……………	三三五
表三……………	三三三
表四……………	三三三
第三篇 女性歌の断層……………	
日記にみる三人の女性……………	三四九
——女性歌の勅撰集期より私家集期への推移——……………	三四九
序 説……………	三四九
第一章 『たまきはる』(健御前)……………	三五三
(1) 『たまきはる』の和歌……………	三五三
(i) 内容の区分……………	三五三
(ii) 新勅撰集とたまきはるの歌……………	三五五
(2) 健御前の周辺……………	三五七
(i) 健御前の家族関係……………	三五七
(ii) 健御前の性格……………	三六〇
(iii) 歌壇の展開……………	三六二
(3) 『たまきはる』における和歌の機能……………	三六四
(i) 健御前と定家……………	三六四

(ロ)	建春門院崩後の健御前	三六
(ハ)	日記の要点	三六
(ニ)	時代の変化とたまきはるの歌	三七
	第二章 『とはすがたり』(後深草院二条)	三七
(1)	『とはすがたり』の和歌	三五
①	後深草院二条と『とはすがたり』	三五
②	『とはすがたり』の区分	三九
(2)	『とはすがたり』の和歌にみる時代相	三八
(イ)	贈答歌にあらわれた公家と武家	三八
(ロ)	達意の文章と和歌	三八
(ハ)	二条と出家生活	三五
(3)	二条と西行	三九
(イ)	西行へのあこがれ	三九
(ロ)	西行との違い	三九
	第三章 『竹向が記』	四〇
(1)	日野名子の周辺	四〇
(イ)	日野家のこと	四〇
(ロ)	名子の出仕と結婚	四〇
(ハ)	竹向が記は何巻であったか	四二
(ニ)	竹向が記と太平記	四二
(2)	『竹向が記』の歌	四二

序説	四三
第一篇 前江戸期	四三
第一章 戦乱期の武家の女性歌	四三
(イ) 天寿院千姫	四三
(ロ) 豊臣秀頼と和歌	四七
(ハ) 醍醐の花見の主役と歌	四九
(ニ) 姫路城の千姫	五五
第二章 辞世の歌から刻銘の文へ	五八
(イ) 辞世の歌	五八
(ロ) 素樸な刻銘の文	六六
(ハ) 和歌をはみ出した伝達	六九
第二篇 江戸初期（封建制度確立途上期）	五五
第一章 田捨女	五五
(1) 捨女と出家	五五
(イ) 捨女の周辺	五五
(ロ) 捨女と参禅	五八
私家集期 江戸期の女性生活と和歌	五九
(イ) 名子と勅撰集	六八
(ロ) 西園寺家と名子	七三
(ハ) 永福門院と名子	七六

(2)	不徹庵の生活	四八一
(1)	盤珪禪師の遷化	四八一
(2)	晩年の心境	四八五
(3)	捨女の和歌	四八七
	第二章 京極伊知子	四九四
(1)	伊知子の周辺	四九四
(1)	京極家と涙草の著者	四九四
(2)	涙草にみる家系と嗣子	四九七
(2)	涙草の和歌	五〇〇
(1)	涙草の歌と文章	五〇〇
(2)	伊知子と歌	五〇四
	第三篇 江戸中期(階級混淆期)	五〇九
	第一章 杉浦真崎	五二〇
(1)	徳川政策と女性	五二〇
(1)	階級混淆期と国学	五二〇
(2)	家康と和歌	五二二
	家康の女性観	五二三
(1)	生母及び正室について	五二四
(2)	側室達の面より	五二〇
①	江戸入城まで	五二二
	・西郷氏於愛の方	五二三

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
(イ) 仏教からの古学……………	(イ) 徳川幕府と宗教……………	(イ) 国学と女性の和歌……………	(イ) 秀忠正室於江の方（崇源院）……………	永井氏於万の方……………
(ロ) 契沖と古典……………	(ロ) 寺社についての処置……………	(ロ) 神官の妻杉浦真崎……………	(ロ) 側室の面より女性への概観……………	秋山氏於都摩の方……………
	(ハ) キリスト教についての処置……………	(ハ) 浜松における杉浦家の歌会……………	(ハ) 黒田氏於六の方……………	河村氏於茶阿の方……………
		(ニ) 賀茂真淵……………	(ニ) 長谷川氏於夏の方……………	志水氏於亀の方……………
			(ニ) 黒田氏於六の方……………	② 江戸入城以後……………
			(ニ) 神尾氏阿茶局……………	正木氏於万の方……………
			(ニ) 太田氏於梶の方……………	太田氏於梶の方……………
			(ニ) 長谷川氏於夏の方……………	神尾氏阿茶局……………
			(ニ) 黒田氏於六の方……………	長谷川氏於夏の方……………
			(ニ) 側室の面より女性への概観……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) 秀忠正室於江の方（崇源院）……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) 神官の妻杉浦真崎……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) 浜松における杉浦家の歌会……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) 賀茂真淵……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) 徳川幕府と宗教……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) 寺社についての処置……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) キリスト教についての処置……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) 仏教からの古学……………	黒田氏於六の方……………
			(ニ) 契沖と古典……………	黒田氏於六の方……………